



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第4巻 第2号 A 冊
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77407
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の青年層、都市の社会成層、都市内の焦点群落、都市住民住宅の法形式。
File Information	N006_01AS28.pdf



[Instructions for use](#)

SUPERIOR NOTEBOOK
MADE FROM FINEST PAPER

都市社会学

三十八年度讲义

第四卷 第三号
A冊

都市の社会学

都市の社会学序

都市の社会学の発展

都市社会学の法則



一、都市の音響環境

二、都市の社会環境

三、都市住民の生活環境

都市の青年層

一 人口統計は青年層実数

二 職場人口構成、住居に集山 中々商工業に従った人口数

三 犯罪者人口構成 甲青年は割合が多い

四 映画通観入数 又はその他青年

五 其他都市公共施設の利用者

六 文化消費生活としての青年

七 ~~多~~ 配偶年齢

八 住居（転居と世帯帯）

九 青年の集居地（若佛総合生活拠点集居地）

十 地区集居地は老人中心、
若青年の進出状況と都市の革命性

十一 都市と青年

十二 都市青年は地方青年か否か

十三 都市は青年の生活の場か

青年研究

都市青年団に因り

都市の青年地方調査報告書
を考へるのこゝろ

都市の青年層

ここに都市の青年層と云ふのは、その

の合併として何らかの意味で、社会的統一を成し

て、そのおのづかひに、^{（社会的）}組織的集團を

なすべく、^{（社会的）}人は、その年齢構成に於いて

特色ある階層として、^{（社会的）}出まると、都市

の社会生活の^{（社会的）}活動を、年齢

階層に整理して、^{（社会的）}社会特色ある階

層として、^{（社会的）}青年層が、^{（社会的）}出て来ると、^{（社会的）}

^{（社会的）}近代都市は、^{（社会的）}特殊な同質性を、^{（社会的）}持つ格

都市の人の構成に於いては、^{（社会的）}青年層が、^{（社会的）}膨

大して、^{（社会的）}都市の人の構成に於いては、^{（社会的）}青年

△
この人は構成に於いて都市が持たざるものは
青年層の部に於いては、都市
をこの都市的在りしめをその人の構成に於いて
青年層の拡大の目安は、その人の年齢に
より、若くは、その人の年齢に

層の別り、その人の年齢に、その人は一般に知られる
より、その人の年齢に、その人は一般に知られる
△
この人は構成に於いて都市が持たざるものは
青年層の部に於いては、都市
をこの都市的在りしめをその人の構成に於いて
青年層の拡大の目安は、その人の年齢に
より、若くは、その人の年齢に
活動の場所をなして居る。
都市に於いて、その人の年齢に、その人は一般に知られる
の占むる領域は、その人の年齢に、その人は一般に知られる
活動の人の年齢に、その人は一般に知られる
の。とあるは、都市に於いて、その人は一般に知られる
この青年の年齢に、その人は一般に知られる
その人の年齢に、その人は一般に知られる
活動の人の年齢に、その人は一般に知られる

この際として、都市の青年はさうさうの

勢力圏内の中村より集まってくるのである。

三九作
労働青年を以て第一青年を以て第二青年を以て

第三青年青年と云ふ形の中村より集まると

してゐる。世間の青年の形は相違

に異なると。私は都市の青年について

云へば、可作等も世間の形を以て生活をしては

なぬ。

都市の生活が如何に多く青年層の

方に及ぶか、そのことを統計の表は

得山等であるが、都市の消費生活

が如何に多く青年層を以てして

かきつらぬ、教字は余りよくない。

映画館に於ける地獄の如きにして青年の

手は誰れ認めよと云ふてある。それを計敷して

表字は且あてうなへ。然しや、此は、^也外野

の如き、人の産後、^也の脱退はよきは

映画を考たす。所の所大即、^也十に有する、^也三

才位、^也者年、^也有、^也か、^也想、^也作、^也を、^也予、^也を、^也

し、^也作、^也は、^也よ、^也の、^也より、^也下、^也あ、^也た。あ、^也作、^也宋、^也か、^也作、^也

を、^也を、^也誰、^也む、^也年、^也齡、^也厚、^也如、^也喜、^也年、^也の、^也あ、^也り、^也か、^也り、^也

作、^也る、^也し、^也是、^也の、^也積、^也り、^也て、^也あ、^也る、^也と、^也述、^也へ、^也る、^也。

随、^也筆、^也を、^也誰、^也ん、^也た、^也り、^也か、^也ら、^也な、^也。

か、^也ら、^也い、^也や、^也増、^也え、^也る、^也た、^也の、^也実、^也は、^也ど、^也ん、^也か、^也も、^也の、^也、^也あ、^也ら、^也

うか。高知新聞は老人達の信託す
と云うて、パケンの原題も結構な
如き事か。そんな都市伝説の
娯楽施設の事について調べるゆゑか
耳。図書館、音楽会、はつこし等
悉くそれ等の成のほんの十数、ものだけ
大和書青年会による、物用さるる
と云ふ事か。

都市に於ける集團の中世帯は今年般
階層であるが、これと都市の
群をどうにかする。職場は全般的階層
をどうにか、その労働組合は青年の

である。生活格差を(主)は知らぬ若者も
のちである。只地回(主)の不便をとし
世帯を累位として片の若者には有る。
これの所が小吾年の的である。
都市に構成員をいふは色々の形の際
自らも吾年をいふより若くは小の
また調査した取をいふ。
都市の吾年は是の小教のものは宗族
と共に同一世帯を有る片は他は皆他
の宗族と世帯を有るか準世帯に依
る片は準世帯及び他の宗族の中に
の生活も落つていふ生活でないか

都市に青年團が在り

それ等の青年は住居以外の娯樂設備
に向ふ傾向は甚だ下である。都市の娯
樂機關が最も多く青年によつて利用
せらるゝのは甚だ多か^る。然し然るにつれて
いふ程度にあるが、^新都市の青年は
未婚の者は甚だ生活に於いて青年の
近頃は其の片腕の持ち主として知ら
れてゐる。

その片腕に就ては、^新都市の青年は
年々進歩的であるのは当然である。若
年層は空想を好み革命を好む。よくも
あしくも都市とその文化を推進して

これは吾輩の事。即ちはその意味で
革命的な破地を本質的になす事である
である。

10 都市の社会秩序

一 市民生活と職業

一 職場の秩序

一 学業と勤労年表による職業

一 収入と生活水準と文化水準

一 階級対立の二群

一 投資区劃の二線

一 都市の階級と階級斗争

二 二つの陣営

都市の経済生活は都市を以て中心とし、その外に展開する

成層の多岐の程度、社会経済的階級
都市

リロ・マンの社会成層

日本社会主義論の社会成層論

社会階級の概念を指し、社会的階級に於ける

人々の生活の巨量、社会的階級に於ける

一多の社会生活の水平的な社会的階級と考へ

垂直的上下的社会的階級が考へられ

社会階級の上昇と下降、集團の上昇と下降

社会階級の上昇と下降、集團の上昇と下降

社会階級の上昇と下降、集團の上昇と下降

都市の社会成層一般を以て

都市の社会成層の一の階級に於ける

都市の社会成層の多岐の程度

都市の社会成層の多岐の程度

都市

都市の社会成層

都市の社会成層は職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

なり、一日の労働の時間や職業が基礎に可

ゆゑに職域^{内部}には成層がある。然しそ

れが互うに都市における成層成層であるが

職域相互の間に階層の上下が認め

らる。その関係は何であるか。

都市に在る各種の職場には何れも

成文の又は不成文の出来て職階の制

度がある。職階は元々いへば工場と勤務

と年表の基礎の上に出るべきものであるが

累に上層部の人との縁故の關係による場

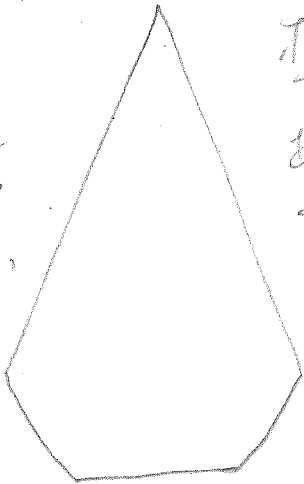
合もある。職階の上昇と共に収入が得

る。下層の人に対し統制指導支配の事

業は事々の範圍が狭し力が加はる。

収入の増加と共に生活水準も高くなる。
ますます富が集中し権力が加す。

多くの職位における職員の職階を人の
ピラミッドの形に固めること上昇する者に
は人より少ない。然しそこでほ下層の
人員数は最も多量となる決りはない。
即ち法の形である。



上昇するに共に少数となり割合は職域
により一定しては居ない。

職域における職階の割合は右の如く大抵

ワミラミラに的であるが、この職域が労働
争いの突発の中に入った場合は此ミラミラ
とは上下の二つの陣営に完全に分離さ
れる。その心算をの線が同じであ
る。一線の上は資本家例とあり一線の下
は労働者例とある。然るはこの一線は
何を基準として出来て居るか。今吾等は
製糖層社の場合について考へて見よ。

(ここに吾等の製糖の例挿入)

この一線は収入の階層による、と分けて居
るのではなく職務の別による引かかるとす。

職階においては収入の階層と職務又

制

権力の階層が完全な一級と見るのとなり
可分也。即ち収入は高くとし職務と
とは部支配的である場合である。
ピラミッド図形の下より上に向か
ふ兵に漸く突如として対立する二階層の
上部にかぎり^{同部}下部と対立する同部
也。二階層は恐らく探取する。側
と探取する。側の対立である。
と云へばはあやうか、可分対立である。
はしかく単純ではない。末は一階の
側は探取する側である。探取する。
人自身は対立の血しぶきの外に

日本銀行 東京 支店 支店長の
事務 簿記 簿記 簿記 簿記

素業に耽るべきのには控へられぬ人

が操縦する人のみに苦悶して居る場合

もよくある。

一人の資本家が千人の労働者より多

くの資本はない。千人の労働者の中何人か

か一人の資本家を助けようとする。

都市に於ける職場の階層の同位

は多うたが、職場相互の階層の同位が

同じである。一つの職場の上層が他の

職場の中層に等しい場合がある。

職場同のかわりある。同位は各労働者

年表及び収入表を吟味する事によつて

式、程度、形、社会的位階の上下を新
断する事、又去来。和口燃 此より今
此の調査の一端として述べらるる事
亦大和市中に於ける階層上下新定調
査は職階の上正に於ける一の新定
考料と有る。とありてあり。然し其は意は調査
都平に於ける此の階層は去来と有る
し。各職域に於ける職階に附着する
よるであらう。職域相互の關係は
強弱に於ける評價と有る可き事あり。如
き所の勤続年数と収入とを考
察する事により大和の地位を知り

か、去来よりあるもの、即ち高い学下を

此も昔年教、勅達したる人が高い

~~地味~~ 此も階層にあると云ふ一般

的傾向は認めざるを得ない。然し人^{の素質}に依

りてある運不運があり又都市の

少世郷道には色々の素造も有るもの

下左の原野かくつれは均合も甚

く多うである。

昔村に同じくしたものは何れの職域

にも是のべた二つの上二階層所

の対応振舞の固いお思のそは是

の傾向は素と素にばげしくなりつゝ

あゝと云ふに總ての職域に於ける也二
階序の対立は階層的に横に結
束し、たゞさう却て市に於ける職域
域が一(國)とあつて二つの階序に分
水対立して丹の横に足らぬことである。
その横の結束が強ゆるに土なから却
て市の人々が二つの階序に分れて対立
して丹の横に足らぬことである。
この対立は果して却て市に本質的な
ものであるとは思ひなから、却て市の
近代化と共に急つて其傾向はますます強
く好である。

5 都市内の商店群落

都市の中心に中心街があり、全市に亘って
第一級の繁華街が^{集まる}点在し、その同様の
第二級の繁華街が^{集まる}点在し、その又
同様の第三級の繁華街が^{集まる}存在し、その又
同様の第四級の繁華街が^{集まる}存在し、かくの
如くして、各層の第一級以下の繁華街
又は~~単~~孤立商店が、全市内の何れかの
位置に^{集まる}存在し、その二三丁目以内にある
ものに限り、大甲の商店存在地を全
市に^{集まる}行き、よくと云ふ様な形をか
考へ、小町の^{集まる}はなく、^{集まる}に^{集まる}は
の形式は^{集まる}、^{集まる}と^{集まる}の^{集まる}混然として

と見れば、然しこんな粗末な形式が
我々の混雑せしむる諸条件の存す。我々の
の姿の底には存して居るものがある。
今予々~~此~~が如何に同大の位居の計によ
る。因り~~此~~に配置するものなるもの
の各所に大きな野工場もあつた。即ち
その学校が官舎や倉庫など、暖房
に配置するもの。又、位居の大なる
と、我々の生活水準も、然しから先、
これ程の原動力が、然し社会には
是れと混雑せしむるもの。けれと、市役

に似てたがう半足靴は行かぬのは、
足が外れぬ
履き慣れたところ九オライエ靴の
よさありか、一般には二三丁
笑ふもあるが常々耳。

下着も、辛味居居の清書
も次の様な高価麗麗の
と云いね。

辛味や居居の一般消費
二三丁以内の日々
足靴の店が、五丁以内
は、食料や雑貨を
おと高橋店街と
十丁以内

は赤者大町の高倉街街がまっしるん
は色んの高倉か赤めふよ外に教路の中
ルしよたが日新しし高倉をさあした
り安住な娯楽施設に果然と心をあま
りませうしもあるよ

都市の規模によつてその中心にあり大町を
高倉街か金町街の中心街であるゆゑ今も
さうその内中子に幾つかの中心街がある。
ゆゑ今も。自身の位置から二三丁先の
高倉街か金町街に色んの高倉街
をまっしるん高倉街にまっしるん高倉街
ゆゑ今もは金町街は相違ないよ

知し友の如く、喉係女身へいふ事にはあはれ

下あしう。

カヒヒエセンタシとこの

ニわは曲り所から都帯を去つた時今と全く

く同好なり。他々の親の家本器も口帯

紅な伊香の方に土掛けの意匠、一々目に

一級位土掛け、田舎の半蔵に一級位土

け。中帯帯、特許の月條土掛け。

中帯帯、何年にも一級位土掛け。大帯帯

との関係と関係不事。他々の家本が

云つばわの孤奏と同序より大帯帯は新

の關係は時々の回隔が長くなつて行く順

年をなして身より若くしてその区画が

鳴り心遠くたつて行く帳簿のしきり。

都市に於ける市民の生活のしきり。

（如常の生活）

閑然として行く帳簿のしきり。

（一）

都市に於ける最終の生活のしきり。

それは恐らく八百屋か菜店であらう。

彼を兼ねて居る人、菜店が一軒菜店

りの店に人々の生活のしきり。

あう下町。全市に亘りクモの影の如

く散布して居る生活のしきり。

それは伊豆の山に如く強大

な影を落とす生活のしきり。

別し多くして、片もして、此の職を、

日。

任、官、集、全、理、と、し、て、の、都、市、に、職、務、を、分、
入、し、て、都、市、は、近、代、化、し、て、ま、た、の、職、務、を、
ま、か、る、は、様、々、の、変、化、を、受、け、た、の、事、本、
聖、紀、を、吾、れ、も、り、昔、も、少、い、は、一、百、名、と、
多、く、な、り、な、り、故、に、此、二、の、職、を、は、
統、制、の、純、儀、に、對、し、て、他、の、職、務、の、各、
一、の、一、に、對、し、て、近、代、化、的、な、事、を、行、な、
す。

此、二、職、を、は、各、都、市、の、管、轄、に、お、き、て、
人、の、當、り、當、り、致、す、に、對、し、て、我、の、

の日常生活の實際に於いては一日も一日も欠
けず生活しつゝは之を食料とする。位
片の交換や修繕は毎月に毎月ゆきと
ふの洋ではない。そして一日にゆきとふない。衣
も一日も欠く事は出来ぬ。この水と土の調
整や修繕が毎日ゆきとふ。此の二は
常に一定の程にゆきとふ。少くとも毎日
にゆきとふ。これに對して食は毎日
ゆきとふ。食の中にも食は財力によ
るは和菜に野菜がすくてあらは。副食
物としての野菜は食は食の毎日更新
する。ゆきとふ。新食ゆきとふ。

味、味や信使は日毎に更なる父をたす。
よゝにやあつ。けれど、七集と肉を好ま
し、は生活の上下の如くに物よりの毎
おろく、踏入る。うを、は、とす、り、つ、あ、ま。
はる、な、と、り、あ、る、か、あ、り、中、の、高、店、の、内、上、の、り
多、部、に、あ、る、す。可、以、と、す、ま。

予て、五、部、内、は、日、本、教、育、時、代、の、歴、史
の、回、に、就、し、た、る、に、あ、る、か、あ、り、中、の、高、店、の、内、上、の、り
し、と、り、つ、あ、る、か、あ、り、中、の、高、店、の、内、上、の、り
原、を、伊、集、と、し、た、い、時、代、は、近、年、時、代、に、も
ま、ま、う、に、あ、る、す。この、封、建、時、代、の、為、を、し、つ
こ、り、二、つ、の、歴、史、は、命、命、の、近、代、化、の、歴
の、中、に、し、つ、く、と、し、た、い、存、在、す。

普通世帯 A

1家族 = 世帯
2家族 < 世帯 (高齢者)
3家族 > 世帯 (低年齢人口)

B 二世帯

下宿屋

貸付金庫

実家実家

家族職域
個人生活 家族関係

成人

一人世帯
住居
下宿屋
職域
家族関係
代付金庫

C 単身世帯

配宿
社宅

職域

若居

代付金庫
職域

アパート

職域

経済

1 居住に制し 職域の支配の増大

2 居住型商業の増加の増大

3 経済的同一性の減少

4 生活の同一化

8 都市住民の居住の法形式

1 居住型商業

社宅 居住の法形式

下宿屋 居住の法形式

アパート 居住の法形式

若居 居住の法形式

代付金庫 居住の法形式

2 借付型商業

土地の代付金

大人 借付型商業

実家実家 (社宅)

クック (実家) 職域

若居

社宅

3 借付型商業

借付型商業

下宿屋

下宿屋

縁故 同居

素人下宿、同居人 (学生)

他宅 住居
下宿 下宿

(有子)

大曹子 同居 同居

主宅 独身宿

小曹子 同居 同居

他宅

自営者

下宿

学生

素人下宿

有配偶者

主宅 又体独立生活

主宅 集合生活

有配偶者

集合住宅

散居住宅

都市青年が集合生活をする傾向
如何

職場と住居の分離の法

同居 同好より同居 同居 同居

同居同時

純宗族

同居異時

同居人互宗族

異居同時

職務を越えては子孫他に有
場合

異居異時

独立宗族

1. 高層の中に居住する場合 同一に小戸

2. 同一層敷成に高層と低層と居住する場合 別々に
別々に

3. 高層と低層と別敷に宗族の場合

4. 宗族の全員が高層に居住する場合

5. 主人と宗族の一部が高層に居住する場合

6. 主人が低層に居住する場合

7. 他人に居住せしめられたりする場合

1. 主人と使用人と同居する場合

2. 主人と使用人と同居せず主人の支配する

家内同居する場合

3. 主人と使用人と同居せず使用人は自居
に居所を求め同居する場合

自由平等化の方向に及し後述

主として使用人の居住を以て拘束し

この電報に他は
この電報に他は
この電報に他は
この電報に他は

他人の自由を無視したる事がある

も法律に基き法的に認められる事がある

である。

昭和二十五年三月三日
洞石島(伊豫)の中

善き世帯

事世帯

の題に... 楚定

大谷田 洞石島

各道「都市」... 洞石

研究

洞石... 楚定... 善き世帯... 事世帯... の外... 伊豫... 洞石島

準世帯

1. 寡室舎

2. 寡人下宿

3. 寡人下宿 (仮込経第)

下女下宿 (一準世帯)

(仮扱いは経第と下女は著色)

世帯の内に入不(片) (合算を
子拂ふが不(片)は二右は(片)は右(片)

大谷長官の調査の結果によれば

北條全世帯 68,985 (内準世帯)

13. 準世帯 5,862 (下宿) / 新造(片)準世帯

調査地は北條系大谷世帯

北條系より南3條まで西8丁目

西19丁目まで昭和二十一年

人口一、五五二世帯数二、五三三

調査結果は以下の通り

1. 寡室舎 廣く今部は

12. 外に1, 組戸 477人

2. 寡人下宿 六組戸 100人

3. 寡人の下宿 他 一八四件

右の内 3 組戸の寡室舎は次の

他人の口で世帯を構成して行くもの
 とは一人を任ずる者し、先けを以て
 二人を任ずると、他世帯に累身する
 一人を任ずるものより下である。

~~世帯~~

	一任一人 世帯対世帯		他世帯 一人同居		他世帯 二人同居		他世帯 三人以上同居			計 世帯 数
	m	f	m	f	m	f	m	f	世帯	
子 例	22	24	47	44	3	5	3	3	1	155
人 数 (世帯数)	22	24	47	44	6	10	10	10	3	180人

同居人は結婚同居の子世帯の中は金持ちを経営して女中や家子も雇う人もある。

上の五割はつと多量に金をとる。階級は18才より30才までの若き階級は1.0の層階級は1.897%。2.下層階級は52.0%。3.未入下層その他は49%と。

同居人は下の階級は役員及び係長。同居人は使用人。家子使用人。職業はほとんどは勤め人。その総数は85%。人下は18才より30才が36%。人下は62.6%。然し15才より18才が初等階級は15%。19才より24才が81.1%となる。

一階級の素朴な生活の多の如し。

	總人數	年齡		總人口百分比		性別	
		18-30	15-30	18-30	15-30	男	女
1. 總人口	477	428	442	69.7%	92.7	119	358
2. 工人下層	100	82	90	82.0	90.0	97	3
3. 工人下層 總人口 一人世帶	184	91	91	49.0	49.0	91	93
計	761	601	623	78.8	81.8	307	454
同居人	585	367	479	62.8	81.6	361	224